

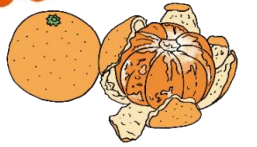


深谷市立深谷小学校
令和2年1月8日



手指を使い、五感を育てる「皮むき」!

旬のかんきつ、食べていますか?

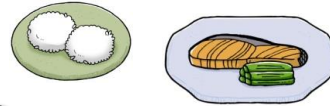


新しい年を迎えました。昨年は、台風による大雨など大きな自然災害が続きました。今年はぜひ平穏な年であってほしいものです。

1月は年の初めです。お正月に始まり、七草、鏡開き、小正月など、1年間を健康に暮らせるようにとの願いを込めた行事がたくさん行われます。また24日から30日までは「全国学校給食週間」です。この期間を通し、あらためて食べ物大切さや作る人の思いを知り、感謝の気持ちを持って食事をする事ができるようになってほしいと願っています。

1月20日~24日

深谷小学校給食週間です!



みなさんが毎日食べている「学校給食」。その始まりは明治22年、山形県鶴岡町（現在は鶴岡市）にある私立忠愛小学校で、家庭が貧しくてお弁当が持てこられない子供たちのために無料で食事を提供したことからといわれています。その後、全国で実施されるようになりましたが、戦争による食料不足で中止されてしまいました。戦争が終わり、子供たちの栄養不足を改善するために、外国などからの援助で給食が再開されました。

現在では、食料不足だった戦後から大きく変わり、たくさんの食品から何が必要かを選び、考えて食べることが求められています。そのような背景から、学校給食も「学校で食べるお昼ごはん」としてだけでなく、生きた教材としてみなさんの食生活のお手本となるように考えられて献立が決められています。

世界中の人々からの温かい支援に感謝し、教育の一環として行われる学校給食の意義を考え、毎年全国で学校給食週間が実施されるようになりました。



給食週間中には昭和30年代の昔の献立、深谷市の姉妹都市の献立、深谷市の地場産物を使った郷土料理の献立などを実施します。深谷小学校のみなさんは、毎日食べている給食について考える週間にしましょう!



鏡もちの「だいたい」

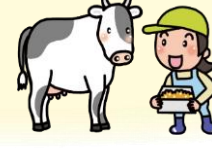
しそん(子孫)がだいたい(代々)つづくようにという願いが込められています。



感謝して食べよう

みなさんのもとに給食がとどくまでに、たくさんの人がかかわっています

● 田んぼや畑、海や牧場で働く人



こめや野菜を作ったり、
さかなをとったり、牛や
ぶた、にわとりを育てて
くれます。

● 食べ物を運ぶ人



食べ物をとれた場所
からみんなの町へ、
また給食センターか
ら学校まで運んでく
れる運転手さん。

● お店の人



よい食材を選ん
で売ったり、注
文に応じて朝、
学校まで運んで
くれます。

● 給食をつくる人

献立を考える栄養教
諭(学校栄養職員)
の先生や、給食をつ
くる調理員さん。



● 準備をする人

給食当番さん

